

# 新型コロナ 大学共通テスト延期せず 文科省 1月16、17日で調整

新型コロナウイルス感染症による休校が続き、延期論もあつた大学入学共通テストについて、文部科学省が予定通り来年1月16、17日に実施する方向で調整に入つたことが11日、関係者への取材で分かつた。全国高等学校長協会を通じ、各高校から意見を聴取。予定通り実施を求める意見が多く、大学側からも個別試験に影響するとして延期に慎重な声が出ていることを踏まえた。

高校、大学側と協議して結論を出し、6月中に公表する「大学入学者選抜実施要項」で示す方針。ただ、感染が爆発的に拡大した場合、改めて延期を含む対応を検討する。共通テストは今年1月に最後の実施となつた大学入試センター試験の後継。

協議では、9月開始予定の総合型選抜（AO入試から改称）や11月開始予定の



大学入学共通テスト  
大学入試センター試験

の後継として来年1月に初回が実施されるマークシート式の試験。当初は英語民間検定試験の活用と、国語と数学への記述式問題の新規導入が目玉とされていた。民間試験

学校推薦型選抜（推薦入試から改称）の扱いも議論する。日程が迫る中、大学側からは共通テストや個別に行う一般入試に比べて柔軟な対応が可能として、日程の繰り下げを容認する声も上がっている。

休校は今年3月以降、長い地域では3カ月に及び、現在も分散登校などを続ける学校がある。短期間で再開した地域と比べ、受験準備に格差が生じるとして、首都圏の高校などが共通テストの時期の繰り下げを希望し、自民党も2週間〜1カ月程度先延ばしを求める提言をまとめている。

一方、共通テストを先延ばしすると、その後の一般入試の日程もずれるため、大学側からは会場の確保などが困難として従来通りの日程が望ましいとの意見が出ている。

共通テストは、英語民間検定試験と国語・数学の記述式問題の導入が目玉とされたが、公平性を担保できないなどと批判を受け、昨年になっていずれも見送られた。このため、センター試験との違いは一部出題方式の変更などにとどまる。

には経済格差や地域格差を広げるとの批判が相次ぎ、記述式についても採点ミスの懸念や、受験生が自己採点をしにくく出願先を決められないといった声が高まり、共に導入が見送られた。

6月11日(木) 神戸新聞分

ターゲットは定まりました。まず、この日が1次予選です。私学志望者は、さらに残された時間の現実味を感じて行動してほしいものです。